



宇治高校 誇りある地域文化に触れる ～郷土料理作りに挑戦～

私たち宇治高校2年生は、地元のもち麦などを使った郷土料理作りに取り組んでいます。

この取り組みは、高梁市の「学園文化都市づくり協議会」により、市内中高大学生による地域活性化活動を支援する「高梁みらい共創チャレンジ事業2025」のプロジェクトの一つとして採択されています。

地元・宇治町の方を講師として、第1回目はもち麦粉入りねじり菓子、第2回目ではけんぴき焼き、第3回目は餅つきを体験しました。もち麦粉入りねじり菓子は、備中宇治を代表する人気のお菓子で、物産館などでも販売されています。私も以前に食べたことがありましたが、実際に作ってみると、商品として形や揚げ色を均一に仕上げることの難しさを実感しました。また、みょうがの葉で包まれたけんぴき焼きのやさしい甘さは、農作業の疲れを癒すのにぴったりで、長年作り続けられている



理由に深く納得しました。餅つきについては、毎年お正月前に親戚で集まって行っていますが、餅つき機から出したばかりのお餅を手で切る作業自体は初めてでした。今回それを体験させていただき、その難しさを改めて知ることができました。つくたてのお餅は、別の食べ物というくらい美味しかったです。地域の過疎化、高齢化とともに地域特有の文化が薄れつつあるといわれています。しかし、宇治高校では、地域の皆さんとの距離が近く、こうした文化を地域の皆さんの協力のもと学ぶことができます。講師の皆さんが地域文化に誇りを持っておられる姿に触れ、私自身もこの文化を受け継ぎ、さらに次の世代へ責任を持ってつないでいくことの大切さを実感しました。

活動の様子は、宇治高校 Instagram やウェブサイト、ぜひご覧ください。



普通科2年
ながいけ まおと
永池 麻音さん



宇治高校
Instagram
UJIKOU_TAKAHASHI
日々の生徒の活動の
様子など発信中



宇治高校
ウェブサイト
宇治高校の公式の
連絡を掲載中

こどもまんなか通信

こども未来課 ☎21-2666

学童保育のリアルをお届け！

令和7年1月から、市内6か所（高梁・川面・玉川・落合・成羽・川上学童保育）の学童保育の運営を、民間事業者へ委託しています。

各学童保育にICTを導入することにより、学童施設への入退室管理等の利便性が向上するとともに、子どもたちの活動等を専用アプリ内で発信し、保護者の皆さまへ日々の様子をより分かりやすくお伝えできるようになりました。民間事業者のノウハウを活かした遊びの充実も図っています。

また、オンラインを活用するなど、多様な手法により研修機会を増やし、支援員の質の向上にも努めています。

今後も子どもたちが安全安心に過ごすことができるように、学童保育の充実・改善に取り組んでいきます。



統括責任者 金丸弘枝さん

「未来の子供たちのために。」を基本理念に、一人ひとりの子どもの心身に寄り添い、主体性を尊重した運営を図っています。子どもたちが「安心」「安全」「笑顔」の日々を過ごせるように家庭、地域と連携していきます！



ICTを活用し全国の子どもたちが交流できる「学童チャンネル」に参加



保護者や学童保育の専用アプリでの活動報告

高梁から始めるローカルキャリア 「高梁 大人の里山留学」

令和6年度から、地域おこし協力隊インターン制度を活用した「高梁 大人の里山留学」が始まりました。全国から参加者を募り、市内の里山エリアに1～3ヵ月間滞在して「地域の暮らしと仕事」を体験する試みです。2年間で約400件の問い合わせがあり、全国的にも注目を集めています。



都市部の若者が注目する、新しい移住体験のカタチ

20～30代の若者が地方移住を考える際の関心事のひとつは「生き方と働き方」です。本事業では、従来の施策ではカバーしきれなかったこの部分に着目。都市部では叶えられなかった「自分らしい暮らしと働き方」を高梁市で見出してもらうことを狙いとしています。初年度は吹屋地域で展開し、現在は有漢地域でも実施しています。



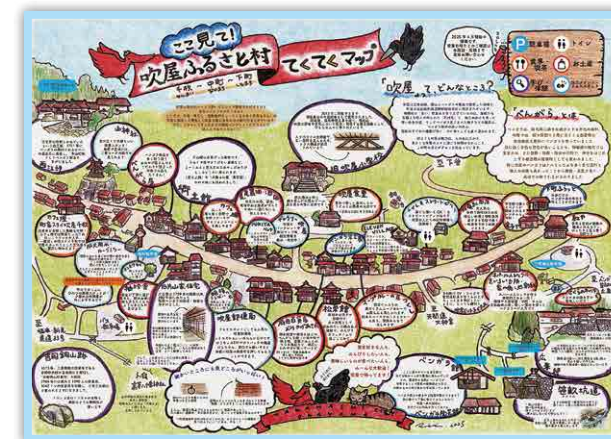
大人の里山留学が移住の決め手となった
地域おこし協力隊 矢田里菜隊員（写真右）

「地域×自分」で うまれる新たな価値

参加者は滞在中に地域住民と交流しながら「自分に何ができるか」を探ります。実際に、SNS運用のスキルを活かした講座の開催や、観光資料の多言語化、飲食店の限定営業など、個々の「好き・得意」と「地域のニーズ」を掛け合わせた活動がうまれました。こうした関わりが繋がり、本事業をきっかけに4名（予定含む）が移住を決めました。他の参加者も関係人口として交流を続けています。

「ただいま」と言える 第二、第三のふるさとへ

滞在を通じ、参加者からは「自分の活動が誰かの役に立ち、自己肯定感があがった」「居場所が見つかった」という声があがっています。また、参加者が友人知人を招くことで、多彩な人材が高梁市を訪れる新たな人の流れもうまれました。本事業のコンセプトは、高梁を「ただいま」と言える“ふるさと”にすることです。外からの新しい感性と地域の皆さんのあたたかい「おかえり」が交差することで、高梁の未来を支える仲間がこれからも増えていくことを期待しています。



参加者が制作した、吹屋ふるさと村てくてくマップ

地域おこし協力隊だより

高梁市地域おこし協力隊では、隊員自らが活動内容をまとめた「地域おこし協力隊だより」を定期的に発行しています。普段、協力隊員がどのような活動をしているのか確認できますので、ぜひご覧ください！

